かごしま NIE実践校

鹿児島県内で2024年度にNIE（教育に新聞を）実践校に指定された13校が、新聞を活用した授業などに取り組んだ。各校が進める活動や授業の様子を紹介する。

「若い目」を題材に感想文

荒川小学校（いちき串木野市）

全校児童9人の小規模校で、実践校4年目。南日本新聞の「若い目」を読んで同学年の考えを知り、感想を書く活動に取り組む。学校全体で励む和太鼓など、共通の題材も文章に盛り込む。

土曜授業の朝15分間を中心に活動する。低学年は記事の中から習った文字を見つける。中高学年は学習用端末で、記事を読んで問いに答えるワークシートを活用。語彙（ごい）力や読解力を磨き、授業の単元ごとに新聞形式で要点をまとめる。

5年の大迫颯眞さんは「新聞は発見が多くて面白い」。5、6年担任の志戸岡直希教諭(36)は「文章の組み立てが上手になった。もっと自分の思いを書く力を付けてほしい」と話した。

（鶴園悠太）

学習用端末を使ってワークシートに取り組む児童　＝いちき串木野市の荒川小学校

読み書きの向上目指す

宮富小学校（肝付町）

職員室前のNIEコーナーに当日の朝刊を掲示し、登校してきた児童が自由に閲覧できる。気になった記事には自由に矢印の札を付けたり、赤ペンで囲んだりできる。図書室にはバックナンバーを並べ、学習で活用している。

実践校1年目。読み書きの力の向上を目指した。磯部広伸教頭は「教員に負担がないようにしながら、教育活動に位置づけるよう心がけている」と語る。

学年ごとの学力に応じて、新聞に親しむ機会をつくる。3、4年生は興味のある記事を紹介し、感想を述べる1分間スピーチに挑戦した。4年の鷹巣仁泰さんは「登校するときに、どんな記事が載っているのか毎日楽しみ」と話した。（石本のえる）

ＮＩＥコーナーで新聞を読む児童　＝肝付町の宮富小学校